

授業概要(シラバス)

授業科目名	看護学概論		
授業担当者名	平賀 元美		
単位数	2単位	開講期（年次学期）	1年次前期
教員担当形態	単独	ナンバリングコード	241-1FUN1-01
備考	実務経験のある教員担当科目		
授業のテーマ及び到達目標	〔テーマ〕 看護の役割・本質・機能・倫理・方法を学び、看護を学ぶ者としての基盤を整える。 〔到達目標〕 1. 看護の重要概念である「健康」「環境」「人間」「看護」を説明できる。 2. 先人の看護理論家の言う看護の考え方が理解できる。 3. 看護者に求められる活動について、社会情勢、歴史の変遷から考えることができる。		
ディプロマポリシーとの関連	DP1. 知識・技能◎ DP2. 思考力・判断力・創造力○		
授業の概要	看護学概論を学ぶ目的は、看護の対象・本質・役割・機能・方法など看護専門職に必要な知識と考え方を養い、これから学ぶ看護学への基盤を形成することにある。看護の「対象」は人間であり、世界の看護理論家の学説を学ぶことで、人間の見方の多様性を学び、看護学の視座を広げる。いにしえから看護は、人々の生活の営みと密着しつつ看護学に発展した歴史的変遷を学び、現代そして未来における看護の役割を考える。看護の場は、家庭、地域・職場に限らず、海外、災害の場へと拡大してきている実態も学ぶ。日常生活と人間の幸せとの関連性に気付き、看護への興味・関心を涵養する。 <実務経験と本科目との関連> 看護師としての実務経験をもとに、看護の対象、本質、役割、機能に関する具体的な例を交えながら看護学への理解を深める。		
学生に対する評価の方法	事前・事後課題（30%）、授業内容の理解度（70%）により総合的に判断する。		
授業計画（回数ごとの内容、授業技法 等）	第01回 ガイダンス（授業内容と目的の説明）看護の変遷と歴史、看護職の法的根拠と位置づけ（講義） 第02回 看護とは何か、看護の目的と機能、対象と機能について（講義） 第03回 看護の場と看護活動 医療・看護の場と看護体制（講義） 第04回 看護を構成する主要概念（講義） 第05回 看護理論の理解・ナイチンゲール（講義） 第06回 看護理論の理解・ニード論（ヘンダーソン）（講義） 第07回 看護理論の理解・適応理論（ロイ）、セルフケア理論（オレム）（講義） 第08回 看護の対象の理解（発達課題と人間の生活）（講義） 第09回 看護の対象の理解（社会、文化）（ディベート準備） 第10回 看護の対象の理解（社会、文化）（ディベート） 第11回 看護の対象の理解（社会、文化）（ディベート） 第12回 看護と倫理（講義） 第13回 看護実践と科学、看護技術と科学的根拠（講義） 第14回 現代医療と保健・医療・福祉システム（講義） 第15回 現代医療における看護の課題 授業全体の振り返り		
使用教科書	『看護学概論』（医学書院）、『看護の基本となるもの』（日本看護協会出版会）、毎回配布する資料 購入するテキストは2冊だけですが、さまざまなテキストがあります。いろいろな本を読み比べて、考えを深めていってください。参考書籍：『看護学概論』（メヂカルフレンド社）、『看護学概論』（ナーシング・グラフィカ）、『フローレンスナイチンゲール 看護覚え書』現代社、『国民衛生の動向』（厚生労働統計協会）、『看護者の倫理綱領』（日本看護協会）		
自己学習（予習・復習等の内容・時間）	シラバスあるいは授業で示される次回の授業内容を確認し、予習する。 Moodleを活用して、授業終了時は学びとして自覚したことや疑問等を提出をする。この内容に基づいて自己学習をすすめる。さらに、授業の最後に次回の課題を示すので、自己学習した結果を授業開始時に提出する。シラバスあるいは授業時に示される次回の授業で扱われる話題について予習する（週90分）、授業時に生じた疑問点等について調べ、まとめる（週90分）。 看護を学ぶ導入となるので、講義として話を聞くだけでなく、本を読むこと、読んで理解した内容をまとめ他者に伝えること、他者の意見を聞くこと、レポートにまとめることなどを体験する。全ての回の授業がそれぞれ異なり意味ある内容になっていますので、休まず、かつ課題を行って参加してください。		

授業科目名	基礎看護学技術論1		
授業担当者名	林 智子、平賀 元美、白鳥 さつき、出原 弥和、本多 利枝、三輪 桂子		
単位数	2単位	開講期（年次学期）	1年次前期
教員担当形態	複数（主担当：平賀 元美）	ナンバリングコード	241-2FUN2-02
備考	実務経験のある教員担当科目		
授業のテーマ及び到達目標	〔授業科目のテーマ〕 看護実践に共通する基礎看護技術を身につける。		
	〔授業科目の到達目標〕 1. 看護実践に必要なコミュニケーション、観察の意義と方法を理解できる。 2. 療養生活における安全、安楽のニーズに基づいて、ニーズを充足するための方法が理解できる。 3. 活動と睡眠・休息のニーズと療養生活における援助について理解することができる。 4. 生命徴候の観察と身体測定の方法が理解できる。 5. 看護者として看護実践を記録、報告する意味を理解できる。 6. バイタルサインの測定を正確に実施できる。		
ディプロマポリシーとの関連	DP1. 知識・技能○ DP2. 思考力・判断力・創造力◎		
授業の概要	共通看護技術を学ぶ目的は、あらゆる看護技術の土台となる全ての対象に共通する基本的な基礎看護技術を修得することにある。①技術について（技術とは、技能とは）②コミュニケーション技術（言語的・非言語的コミュニケーション、「話す」「聴く」「伝える」基本技術）③観察・測定・記録・報告の技術（意義、生命徴候の観察方法、身長・体重・腹囲の測定方法、記録と報告の内容）④安全を守る技術（感染予防、転倒・転落の予防）⑤基本的な活動の技術（ボディメカニクス、体位変換、安楽な体位保持、移動・移乗・移送）⑥病床の整備（環境の調整、ベッドメイキング、リネン交換）⑦看護援助の判断基準となるバイタルサインの基本について学ぶ。 ＜実務経験と本科目との関連＞ 看護師としての実務経験をもとに、実際に医療現場で行われている看護技術に関する具体例を示し、必要な対応を検討する。		
学生に対する評価の方法	テーマ毎の事前学習・技術演習での課題レポート（30%）、授業内容の理解度確認（70%）		
授業計画（回数ごとの内容、授業技法 等）	第01回 ガイダンス、看護技術とは、看護技術の学び方、看護実践力と看護（講義） 第02回 実習室の使用方法と看護を学ぶ上での身だしなみと注意事項（講義） 第03回 看護実践に必要なコミュニケーション（講義） 第04回 安全・安楽のニーズと充足：安全・安楽の意義（講義） 第05回 安全を守る技術：スタンダードプリコーション、手指衛生、廃棄物の取り扱い（講義） 第06回 安全を守る技術：消毒と滅菌（講義） 第07回 安全が脅かされる環境と予防：感染、転倒・転落（講義） 第08回 安全を守る技術：ボディメカニクス、基本肢位・良肢位・体位、体位変換（講義） 第09回 安楽を促す援助：電法・リラクゼーション（講義） 第10回 環境とは、看護における生活環境と整える意義（講義） 第11回 安全を守る技術：衛生的手洗い、個人防護用具の着脱1（演習） 第12回 安全を守る技術：衛生的手洗い、個人防護用具の着脱2（演習） 第13回 看護場面における生活環境：快適な環境と整備（講義） 第14回 病床の作り方：ベッドメイキング、リネン類のたたみ方（講義） 第15回 病床の作り方：ベッドメイキングの実際1（演習） 第16回 病床の作り方：ベッドメイキングの実際2（演習） 第17回 病床の作り方：リネン交換（講義） 第18回 安楽の援助：リラクゼーションの実際（演習） 第19回 病床の作り方：リネン交換、環境整備の実際（演習） 第20回 観察と測定：観察とは、観察の技術、全体の概観、生命徴候の観察（講義） 第21回 生命徴候の測定：バイタルサイン、変動の要因、測定のための基礎知識1（講義） 第22回 生命徴候の測定：バイタルサイン、変動の要因、測定のための基礎知識2（講義） 第23回 生命徴候の測定：バイタルサイン、変動の要因、測定のための基礎知識3（講義） 第24回 看護記録：看護における記録・報告、相談の意味、看護記録の方法と報告の仕方（講義） 第25回 バイタルサイン：体温・脈拍・呼吸・意識・経皮的動脈血酸素飽和度の実際（演習） 第26回 バイタルサイン：血圧・触診法・聴診法の実際（演習） 第27回 バイタルサイン測定の記録・報告（講義） 第28回 カンファレンス：カンファレンスとは、種類と方法、カンファレンスでの役割（講義） 第29回 バイタルサイン測定の実際と記録、報告1（演習） 第30回 バイタルサイン測定の実際と記録、報告2（演習） 授業全体の振り返り		
使用教科書	『基礎看護技術Ⅰ』（医学書院） 『基礎看護技術Ⅱ』（医学書院） 『写真でわかる基礎看護技術アドバンス』（インター・メディカ）		
自己学習（予習・復習等の内容・時間）	シラバスに基づいて、講義内容を自己学習して授業に臨むこと。初回にテーマ毎の事前学習課題を示すので、期日までに提出すること。技術演習は、講義の資料だけでなくビデオ映像を活用してイメージを持って臨むこと。授業以外の時間を活用して、技術の自主練習を行うこと。シラバスあるいは授業時に示される次の授業で扱われる話題について予習する（週90分）、授業時に生じた疑問点等について調べ、まとめる（週90分）。		

授業科目名	基礎看護学技術論2		
授業担当者名	平賀 元美、林 智子、白鳥 さつき、出原 弥和、本多 利枝、三輪 桂子		
単位数	2単位	開講期（年次学期）	1年次後期
教員担当形態	複数（主担当：平賀元美）	ナンバリングコード	241-2FUN2-04
備考	実務経験のある教員担当科目		
授業のテーマ及び到達目標	〔授業科目のテーマ〕 生活援助の実践に必要な基礎看護技術を身につける。		
	〔授業科目の到達目標〕 1. 人間に必要な食事、活動、睡眠・休息、排泄、衣生活、清潔の意義が理解できる。 2. 食事、活動、睡眠・休息、排泄、衣生活、清潔のニーズと療養生活における援助の方法を理解することができる。 3. 安全安楽な陰部洗浄の援助を実施できる。		
ディプロマポリシーとの関連	DP1. 知識・技能○ DP2. 思考力・判断力・創造力◎		
授業の概要	生活援助技術を学ぶ目的は、対象の基本的ニーズに即した、安全・安楽で基本的な日常生活の援助方法と基本的ニーズとして生命維持に極めて重要な日常生活の援助方法の基礎知識を学ぶとともに、看護師としての基本的な態度を修得することにある。基本的ニーズとして生命維持に極めて重要な①栄養と食事（食事介助）②活動（体位変換・安楽な体位保持）③睡眠・休息④排泄（自然排泄への援助、便尿器の挿入、膀胱留置カテーテルの管理）の援助技術を学ぶ。対象の基本的ニーズに即した、安全・安楽で、基本的な⑤衣生活（和式寝衣・パジャマの交換）⑥身体清拭（全身清拭、口腔ケア、洗髪、部分浴、陰部清拭）の援助技術を学ぶ。コミュニケーションを駆使し、対象の反応を評価し、次の学習に活かすリフレクションを慣習化する。 ＜実務経験と本科目との関連＞ 看護師としての実務経験をもとに、実際に医療現場で行われている看護技術に関する具体例を示し、必要な対応を検討する。		
学生に対する評価の方法	テーマ毎の事前学習・技術演習での課題レポート（30%）、授業内容の理解度確認（70%）		
授業計画（回数ごとの内容、授業技法 等）	第01回 ガイダンス（授業内容と目的の説明）、人間における食事の意義とニーズ、栄養と食事のアセスメント（講義） 第02回 嚥下のメカニズム、食事介助の方法（嚥下障害のある患者を除く）、摂食・嚥下の訓練（講義） 第03回 経口的に栄養が摂取できない場合：経鼻経管栄養法、食事の形態の工夫 第04回 食事介助の方法（講義） 第05回 人間にとっての活動、意義とニーズ、アセスメントと援助（講義） 第06回 睡眠・休息の意義とニーズ、アセスメントと援助（講義） 第07回 人間にとっての衣生活 意義とニーズ、アセスメントと援助（寝衣交換）（講義） 第08回 移動・移送の援助：ストレッチャー、車いす（講義） 第09回 移動・移送の援助の実際：ストレッチャー、車いす（演習） 第10回 清潔の意義とニーズ、アセスメント、身体清潔に関する基礎知識（講義） 第11回 清潔援助：全身清拭と入浴・シャワー浴・の目的・根拠・援助方法（講義） 第12回 寝衣交換の援助の実際：和式寝衣・パジャマの交換、たたみ方1（演習） 第13回 寝衣交換の援助の実際：和式寝衣・パジャマの交換、たたみ方2（演習） 第14回 清潔援助：清拭の実際1（演習） 第15回 清潔援助：清拭の実際2（演習） 第16回 清潔援助：清拭の実際3（演習） 第17回 清潔援助：部分浴（手浴、足浴）の基礎知識（講義） 第18回 清潔援助：陰部洗浄の基礎知識（講義） 第19回 清潔援助：洗髪・結髪、口腔ケア、耳、眼、鼻部の手入れの基礎知識（講義） 第20回 清潔援助：部分浴の実際1（演習） 第21回 清潔援助：部分浴の実際2（演習） 第22回 人間にとっての排泄のニーズと行動、アセスメント（講義） 第23回 排泄コントロールが困難な患者、尿意、便意があいまいな患者への援助：オムツ交換 第24回 自然排泄の援助：床上排泄、便器、尿器の使い方（講義） 第25回 清潔援助：陰部洗浄の実際1（演習） 第26回 清潔援助：陰部洗浄の実際2（演習） 第27回 自然排泄の援助：トイレへの誘導、ポータブルトイレ（講義） 第28回 清潔援助：洗髪の実際1（演習） 第29回 清潔援助：洗髪の実際2（演習） 第30回 膀胱留置カテーテルを挿入している場合の管理（講義） 授業全体の振り返り		
使用教科書	『基礎看護技術Ⅱ』（医学書院） 『写真でわかる基礎看護技術アドバンス』（インター・メディカ）		
自己学習（予習・復習等の内容・時間）	シラバスに基づいて、講義内容を自己学習して授業に臨むこと。テーマ毎の事前学習課題を示すので、期日までに提出すること。技術演習は、講義の資料だけでなくビデオ映像を活用してイメージを持って臨むこと。授業以外の時間を活用して、技術の自主練習を行うこと。シラバスあるいは授業時に示される次回の授業で扱われる話題について予習する（週90分）、授業時に生じた疑問点等について調べ、まとめる（週90分）。		

授業科目名	基礎看護学技術論3		
授業担当者名	白鳥 さつき、林 智子、平賀 元美、出原 弥和、本多 利枝、三輪 桂子		
単位数	2単位	開講期（年次学期）	2年次後期
教員担当形態	複数（主担当：白鳥さつき）	ナンバリングコード	241-2FUN2-06
備考	実務経験のある教員担当科目		
授業のテーマ及び到達目標	〔授業のテーマ〕 診療治療の援助実践に必要な基礎看護技術を身につける。 〔授業科目の到達目標〕 1. 診療に伴う援助の理論と方法を学び、基本技術を習得できる。 2. 診療に伴う援助技術をうける対象の安全と苦痛を考慮した行動ができる。 3. 安全安楽な筋肉内注射が実施できる。		
ディプロマポリシーとの関連	「知識・技能」○、「思考力・判断力・創造力」◎		
授業の概要	診療に伴う援助の目的は、診療に伴う理論とその方法を修得することにある。身体の状態、反応に基づき、①診察・検査（検査時の介助、検体の採取、静脈血採血）技術 ②薬物療法の意義と適用（内服薬、座薬、パップ、口内錠）③注射の援助（皮下、筋肉注射）④一時的導尿について学ぶ。診療に伴う技術は、臨床の場での実施する頻度が高く、正確な知識と正しい手技が求められる。本授業は他の看護学領域で学ぶ看護の基本となる。そのため、シミュレーター等を活用し、正確な技術を学ぶ機会とする。危険性や医療過誤が発生しやすい行為であることを強調し、安全で正確な看護技術の修得をはかる。 ＜実務経験と本科目との関連＞ 看護師としての実務経験をもとに、実際に医療現場で行われている診療に伴う援助の具体例を示し、必要な対応を検討する。		
学生に対する評価の方法	テーマ毎の事前学習・技術演習での課題レポート（10%）、実技試験（20%）、理解度確認（70%）		
授業計画（回数ごとの内容、授業技法 等）	第01回 講義 ガイダンス、検査の種類と介助時の看護（白鳥） 第02回 講義 検査の種類と介助方法、検査の介助（X-P・CT・MRI・内視鏡・超音波・肺機能・穿刺）（白鳥） 第03回 演習 グループワーク 各種検査方法と看護について 穿刺、血管造影、MRIなど（白鳥、本多、出原） 第04回 演習 グループワーク 各種検査方法と看護について // 第05回 演習 プレゼンテーション 学習成果の発表 デモンストレーションを含む 第06回 演習 プレゼンテーション 学習成果の発表 第07回 講義 無菌操作と滅菌物の取り扱い（本多） 第08回 講義 各種消毒法（本多） 第09回 演習 無菌操作、滅菌手袋の着脱法（1クラス、2クラス分けて実施）（白鳥、平賀、林、出原、本多） 第10回 講義 排尿障害、一時的導尿（本多） 第11回 演習 無菌操作、滅菌手袋着脱の振り返り（本多） 第12回 演習 一時的導尿（1クラス、2クラス分けて実施）（白鳥、平賀、林、出原、本多） 第13回 演習 一時的導尿 反復練習（本多、白鳥、平賀、林、出原） 第14回 演習 一時的導尿 反復練習（本多、白鳥、平賀、林、出原） 第15回 講義 薬物療法と看護 各種与薬方法 注射法（白鳥） 第16回 講義 注射器の扱い、具体的注射の方法と事故防止方法、バイオハザード（本多） 第17回 演習 内服、点眼、座薬挿入の介助（白鳥、平賀、林、出原、本多） 第18回 演習 内服、点眼、座薬挿入の介助（白鳥、平賀、林、出原、本多） 第19回 演習 内服、点眼、座薬挿入の介助（白鳥、平賀、林、出原、本多） 第20回 演習 注射器の準備、アンプル、バイアルからの薬液の吸い上げ方（1クラス、2クラス分けて実施）（白鳥、平賀、林、出原、本多） 第21回 演習 皮下注射、筋肉注射（白鳥、平賀、林、出原、本多） 第22回 演習 皮下注射、筋肉注射（白鳥、平賀、林、出原、本多） 第23回 演習 皮下注射、筋肉注射（白鳥、平賀、林、出原、本多） 第24回 講義 静脈血採血（出原） 第25回 演習 静脈血採血（出原、白鳥、平賀、林、本多） 第26回 演習 静脈血採血（出原、白鳥、平賀、林、本多） 第27回 演習 静脈血採血（出原、白鳥、平賀、林、本多） 第28回 演習 無菌操作まとめと復習（本多、白鳥、平賀、林、出原） 第29回 演習 無菌操作まとめと復習（本多、白鳥、平賀、林、出原） 第30回 演習 学習目標到達度の確認（白鳥、林、出原、本多） 授業全体の振り返り		
使用教科書	①系統看護学講座 基礎看護技術Ⅱ（医学書院） ②写真でわかる臨床看護技術アドバンス①、②（インターメディカ）		
自己学習（予習・復習等の内容・時間）	シラバスあるいは授業で示される次の授業内容を確認し、予習する（毎週90分）。疑問があれば質問したいことや確認したいことをまとめて講義に参加する。講義終了後には講義のポイントや生じた疑問について自分で調べ、ノートにまとめる（毎週90分）。実技試験は決定次第通知する。 看護技術の実技については、看護学実習室で、根拠・手順・留意点をふまえ練習する（技術ごとに90分）。		

授業概要(シラバス)

授業科目名	地域看護学概論																																															
授業担当者名	西出 りつ子、工藤 紀子																																															
単位数	2単位	開講期（年次学期）	2年次後期																																													
教員担当形態	オムニバス（主担当：西出 りつ子）	ナンバリングコード	241-1CCN1-01																																													
備考	実務経験のある教員担当科目																																															
授業のテーマ及び到達目標	【テーマ】 地域に暮らす人々の健康レベルの維持・向上に向けた組織的な健康支援活動とそれに関わる看護職の役割について理解する。 【到達目標】 1. 地域看護の理念と目的について説明できる。 2. 地域看護4分野それぞれの活動の場と対象の特徴について説明できる。 3. 公衆衛生看護の方法について説明できる。 4. 地域の生活者である対象を支える看護職の役割について説明できる。																																															
ディプロマポリシーとの関連	DP1 知識・技能 ◎ DP2 思考力・判断力・創造力 ○																																															
授業の概要	地域に暮らす個人と家族、集団、組織、そして地域、これら全てを対象にライフステージと健康レベルに応じて展開される健康支援活動（健康増進や健康課題の発生予防と回復に向けた組織的活動）と、生活や健康への影響要因を考えて生活者である対象と環境の両方に働きかける地域看護の4分野（公衆衛生看護、在宅看護、産業看護、学校看護）の特徴、特に公衆衛生看護の基礎的な知識について学修する。 <実務経験と本科目との関連> 看護師として、地域看護の4分野での経験を紹介し、実際に起きている課題やその対応について理解を深める。																																															
学生に対する評価の方法	理解度確認（80%）および小テスト・課題（20%）により、総合的に評価する。理解度確認については、別日に設定する。																																															
授業計画（回数ごとの内容、授業技法 等）	<table><tr><td>第01回</td><td>公衆衛生と地域看護学</td><td>西出</td></tr><tr><td>第02回</td><td>戦後の地域看護活動と看護職</td><td>西出</td></tr><tr><td>第03回</td><td>日本の保健医療福祉，プライマリヘルスケア</td><td>西出</td></tr><tr><td>第04回</td><td>ヘルスプロモーション，日本の健康増進対策</td><td>西出</td></tr><tr><td>第05回</td><td>小テスト，地域看護の特性と対象，地域看護活動の方法</td><td>西出</td></tr><tr><td>第06回</td><td>対象別保健活動（1）：母子保健</td><td>西出</td></tr><tr><td>第07回</td><td>疾病対策（1）：障害者対策</td><td>西出</td></tr><tr><td>第08回</td><td>疾病対策（2）：精神保健</td><td>西出</td></tr><tr><td>第09回</td><td>対象別保健活動（2）：成人・高齢者保健</td><td>工藤</td></tr><tr><td>第10回</td><td>疾病対策（3）：感染症対策</td><td>西出</td></tr><tr><td>第11回</td><td>疾病対策（4）：歯科口腔保健</td><td>西出</td></tr><tr><td>第12回</td><td>対象別保健活動（3）：学校保健</td><td>西出</td></tr><tr><td>第13回</td><td>対象別保健活動（4）：産業保健</td><td>工藤</td></tr><tr><td>第14回</td><td>海外における地域保健，多文化共生と地域看護</td><td>西出</td></tr><tr><td>第15回</td><td>地域包括ケアシステム，地域における連携 授業全体の振り返り</td><td>西出</td></tr></table>			第01回	公衆衛生と地域看護学	西出	第02回	戦後の地域看護活動と看護職	西出	第03回	日本の保健医療福祉，プライマリヘルスケア	西出	第04回	ヘルスプロモーション，日本の健康増進対策	西出	第05回	小テスト，地域看護の特性と対象，地域看護活動の方法	西出	第06回	対象別保健活動（1）：母子保健	西出	第07回	疾病対策（1）：障害者対策	西出	第08回	疾病対策（2）：精神保健	西出	第09回	対象別保健活動（2）：成人・高齢者保健	工藤	第10回	疾病対策（3）：感染症対策	西出	第11回	疾病対策（4）：歯科口腔保健	西出	第12回	対象別保健活動（3）：学校保健	西出	第13回	対象別保健活動（4）：産業保健	工藤	第14回	海外における地域保健，多文化共生と地域看護	西出	第15回	地域包括ケアシステム，地域における連携 授業全体の振り返り	西出
第01回	公衆衛生と地域看護学	西出																																														
第02回	戦後の地域看護活動と看護職	西出																																														
第03回	日本の保健医療福祉，プライマリヘルスケア	西出																																														
第04回	ヘルスプロモーション，日本の健康増進対策	西出																																														
第05回	小テスト，地域看護の特性と対象，地域看護活動の方法	西出																																														
第06回	対象別保健活動（1）：母子保健	西出																																														
第07回	疾病対策（1）：障害者対策	西出																																														
第08回	疾病対策（2）：精神保健	西出																																														
第09回	対象別保健活動（2）：成人・高齢者保健	工藤																																														
第10回	疾病対策（3）：感染症対策	西出																																														
第11回	疾病対策（4）：歯科口腔保健	西出																																														
第12回	対象別保健活動（3）：学校保健	西出																																														
第13回	対象別保健活動（4）：産業保健	工藤																																														
第14回	海外における地域保健，多文化共生と地域看護	西出																																														
第15回	地域包括ケアシステム，地域における連携 授業全体の振り返り	西出																																														
使用教科書	木下由美子編集代表：エッセンシャル地域看護学第2版，第2版第13刷，医歯薬出版株式会社，2022.																																															
自己学習（予習・復習等の内容・時間）	1回の講義（90分）に対して、事前学習90分、事後学習90分を基本とする。事前学習として、授業計画の内容を手掛かりに、教科書などの書籍、学術雑誌、厚生労働省やWHOのホームページなど、確かな情報を利用して進め、講義に臨む。Moodleに事前学習を提示する場合もある。事後学習として、講義の最後に提示する事後課題と講義の内容・資料を参考に学習内容を深める。 なお、普段から看護学生として、社会の動きに敏感になり、それらに伴う人々の生活や健康への影響について考える習慣をもつよう努める。																																															

授業概要(シラバス)

授業科目名	成人・老年看護学概論		
授業担当者名	穴井 美恵、坊垣 友美		
単位数	2単位	開講期(年次学期)	1年次後期
教員担当形態	オムニバス(主担当:穴井美恵)	ナンバリングコード	241-1AGN1-01
備考	実務経験のある教員担当科目		
授業のテーマ及び到達目標	〔授業のテーマ〕 成人看護学概論は、成人期にある人の特徴や健康課題をとらえ、看護の目的と役割・方法について学修し、知識を習得する。 老年看護学概論は、老年期にある人を理解し、高齢者を取り巻く社会情勢から、老年看護の目的と役割について学修し、知識を習得する。 〔到達目標〕 1. 成人期にある人の身体的・心理的・社会的特徴と健康課題について説明できる。 2. 健康状態(健康維持・急性期・回復期・慢性期・終末期)に応じた看護について説明できる。 3. 成人期にある人に有用な理論や概念について理解し、看護への応用について説明ができる。 4. 成人期にある人の発達課題や健康課題の特徴を踏まえて看護を提供する意義とその方法について説明できる。 5. 老年期にある人について説明できる。 6. 高齢者を取り巻く社会情勢が説明できる。 7. 高齢者の尊厳とアドボカシーについて説明できる。 8. 老年看護の対象について理解を深め、老年看護の目的と役割が説明できる。		
ディプロマポリシーとの関連	対象の健康レベル及び療養の場に応じた看護を実践するための専門的な知識を身につけることができる。 (「知識・技能」◎、「意欲・態度」○)		
授業の概要	成人看護学概論を学ぶ目的は、成人看護学全般について看護の概要、社会的動向との関連、成人期にある人が家庭・地域・社会において果たす役割と特徴、健康上の課題について概観的に学ぶことにある。成人各期の特徴を心身の発達と生活の視点からとらえ、成人期にある人の健康課題・問題について成人看護に有用な理論・概念を概観しながら理解する。そして、成人期にある人の健康状態に応じた看護の基本について理解する。 老年看護学概論の目的は、老年看護学全般についてその看護の概要、社会的な動向との関連、高齢者の社会を概観し学ぶことにある。また、高齢社会と社会保障の概要、高齢者保健医療福祉の変遷と制度についても理解を深める。老年期の人々が健やかにその人らしく生きるためには、高齢者とその家族の生活を支え、Quality of Lifeを高めるための役割があることを理解する。さらに、高齢者を取り巻く社会の中での課題を提示しながら、老年看護における倫理的な課題について考える。 ＜実務経験と本科目との関連＞ 看護師として、成人期や老年期にある対象への医療現場での実務経験を踏まえて、成人・老年看護を取り巻く現在の動向を交えながら総合的に解説する。		
学生に対する評価の方法	成人・老年：①授業への参加および学習状況(10%)、②レポート課題(20%)、③理解度確認(70%)から総合的に評価する。 成人・老年の評価を総合的に評価する。		
授業計画(回数ごとの内容、授業技法等)	第01回 成人看護学の概要 成人各期(青年期・壮年期・向老期)にある人の特徴(担当:宮本) 第02回 成人期にある人の健康状態と健康課題(担当:宮本) 第03回 成人期にある人への看護(担当:宮本) 第04回 成人期にある人の健康状態に応じた看護と理論(担当:宮本) 第05回 成人期にある人の健康状態に応じた看護と理論(担当:宮本) 第06回 成人期にある人の健康状態に応じた看護と理論(担当:宮本) 第07回 成人期にある人の健康状態に応じた看護と理論(担当:宮本) 第08回 老年看護学の概要、老年期の理解(担当:穴井) 第09回 高齢社会と社会保障(担当:穴井) 第10回 高齢者を取り巻く社会情勢(担当:穴井) 第11回 高齢者における保健医療福祉の変遷と介護保険制度(担当:穴井) 第12回 様々な高齢者の生活の場、高齢者施設の特徴(担当:穴井) 第13回 高齢者の尊厳とアドボカシー(担当:穴井) 第14回 老年看護の目的と役割、老年看護を支える理論・概念(担当:穴井) 第15回 老年看護における退院支援(担当:穴井) 授業全体の振り返り		
使用教科書	①系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学①成人看護学総論 医学書院 ②系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 医学書院 その他適宜紹介する。		
自己学習(予習・復習等の内容・時間)	予習は各講義に該当するテキストの内容をよく読み、疑問や意見を明確にして授業に臨んでください(毎回60分)。復習は各回で示される学習目標に沿って、自分なりに学習内容やキーワード、各授業で示された重要事項についてまとめたノートを作成・整理し、理解しておいてください(毎回60分)。		

授業科目名	保健行動論		
授業担当者名	穴井 美恵、宮本 恵子		
単位数	1単位	開講期（年次学期）	2年次前期
教員担当形態	オムニバス（主担当：穴井美恵）	ナンバリングコード	241-1AGN1-03
備考	実務経験のある教員担当科目		
授業のテーマ及び到達目標	〔授業のテーマ〕 わが国では人々の健康の保持・増進、QOLの向上を目指し、様々な健康づくり施策が行われている。成人・老年期のあらゆる健康レベルにある人々のwell-beingを目指した看護援助の考え方について学修し、知識を習得することを目指す。 〔到達目標〕 1. 成人の健康状態と健康を脅かす要因について説明できる。 2. 主な成人保健事業について説明できる。 3. 成人への健康保持・増進、QOLの向上に向けたアプローチの方法について説明できる。 4. ヘルスプロモーションの観点から成人の健康づくりについて自己の考えを述べることができる。 5. 高齢者にとっての健康維持・増進の意義を説明できる。 6. 高齢者の生活機能の評価指標が説明できる。 7. 高齢者の健康づくりに関する制度・法律について説明できる。 8. 高齢者のヘルスプロモーションの必要性を説明できる。		
ディプロマポリシーとの関連	対象の健康レベルおよび療養の場に応じた看護を実践するための専門的な知識を身につけることができる。 （「知識・技能：◎」「意欲・態度：○」）		
授業の概要	保健行動論を学ぶ目的は成人・老年期の人々の健康を育む支援のあり方を学ぶことにあ る。 成人の健康は加齢、家庭・職業・地域における役割、環境要因に深く関連しており、健康 行動に必ずしもつながらないという特徴がある。よりよい老年期を迎えることができるよ う、成人期にある人の健康の保持・増進・疾病予防に向けた支援の方法について考える。 また、老年期を生き生きと生きるための健康行動を支え、社会活動・社会参加の有用性につ いて、ヘルスケアシステムの活用と看護実践について学ぶ。特に高齢者のヘルスプロ モーションの必要性や高齢者の特徴を踏まえた生活習慣病予防の必要性和介護予防につ いて学ぶ。さらに、高齢者の生活機能の評価する指標および高齢者の健康づくりに関する制 度・法律について学ぶ。 ＜実務経験と本科目との関連＞ 看護師として、成人期や老年期にある対象への医療現場での実務経験を踏まえて、成人・ 老年期のあらゆる人々のwell-beingを目指した看護援助の考え方について総合的に解説す る。		
学生に対する評価の方法	成人・老年：①授業への参画態度（10%）、②レポート課題（20%）、③理解度確認（70%）から総合的に評価する。 成人・老年の評価を総合的に評価する。		
授業計画（回数ごとの内容、授業技法等）	第01回 成人の健康観と健康行動の特徴 第02回 成人保健の動向からみた成人各期の健康状態と健康を脅かす要因 第03回 成人への健康保持・増進、QOLの向上に向けたアプローチ 第04回 成人期・老年期にある人々の健康課題と保健医療福祉施策 第05回 老年期の健康行動、高齢者の社会活動・社会生活 第06回 高齢者の生活機能の評価指標 第07回 高齢者のヘルスケアシステムとヘルスプロモーション 第08回 理解度確認とまとめ、授業全体の振り返り		
使用教科書	①系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学①成人看護学総論、医学書院 ②系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 医学書院		
自己学習（予習・復習等の内容・時間）	予習は各講義に該当するテキストの内容をよく読み、疑問や意見を明確にして授業に臨んでください（毎回60分）。復習は各回で示される学習目標に沿って、自分なりに学習内容やキーワード、各授業で示された重要事項についてまとめたノートを作成・整理し、理解しておいてください（毎回60分）。		

授業概要(シラバス)

授業科目名	急性期看護		
授業担当者名	伊藤 美智子、八田 早恵子		
単位数	2単位	開講期（年次学期）	2年次後期
教員担当形態	複数（主担当：伊藤美智子）	ナンバリングコード	241-1AGN2-04
備考	実務経験のある教員担当科目		
授業のテーマ及び到達目標	〔授業科目のテーマ〕 急激な侵襲を受け健康破綻をきたした対象とその家族を理解し、援助を実践するために必要な基礎知識とアセスメント能力を身に着けることができる 〔授業科目の到達目標〕 1. 周手術期にある患者・家族の身体的・社会的・心理的特徴を捉える方法を述べることができる 2. 手術侵襲とその生体反応の特徴、生命維持・早期回復を促進する看護について説明できる 3. 周手術期における身体面への看護を説明できる 4. 周手術期における患者・家族の心理・社会面への看護を説明できる 5. クリティカルケアにおける患者・家族の特徴を説明できる 6. クリティカルケアにおける看護の特徴と役割を説明できる		
	急性期看護の講義を通して、急性期にある患者とその家族への看護に必要な知識や技術、アセスメント能力を修得することができる。（「知識・技能」◎、「思考力・判断力・創造力」○）		
授業の概要	急性期看護の目的は、急激な健康状態の変化や、手術侵襲による人間の反応（生体反応を含む）を踏まえ看護を実践するための基礎的な臨床判断能力を習得することにある。急性期にある人の生命維持、全身状態の改善、合併症・二次的障害予防を視野に入れ、QOL向上のための看護とチーム医療について学ぶ。さらに急性期にある人の家族の心理的特徴を理解し、ケア提供の場の調整や個別的な対応と、周手術期、クリティカルケアにある人の理解と順調な回復を促すための看護を学ぶ。看護過程ではゴードンの看護過程を学び、それをういた周術期のアセスメントを展開する。 <実務経験と本科目との関連> 看護師としての実務経験をもとに、急性期医療現場で実際に行われている事例を紹介し、実際に起きている課題や対応への理解を深める。		
学生に対する評価の方法	学習状況：演習及びレポート（20%）、理解度の確認（80%）から総合的に評価する。		
授業計画（回数ごとの内容、授業技法等）	第01回 周手術期・クリティカルケア概論（講義） 第02回 クリティカルケア看護の対象と看護の展開（講義） 第03～08回 術前・術中・術後の看護（講義） 第09・10回 急性期看護各論：運動器・女性器（講義） 第11・12回 急性期看護各論：消化器（講義） 第13・14回 急性期看護各論：循環器・脳神経（講義） 第15～24回 ゴードンの看護過程を用いた周術期の看護展開（講義） 第25回～27回 周術期の看護展開（演習） 第28～30回 小児における急性期看護（講義・演習） 授業全体の振り返り		
使用教科書	①系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学2・3・4・5・6・7・8・9・10・11 医学書院 ②系統看護学講座 専門分野Ⅱ 臨床外科総論、臨床外科各論 医学書院 ③系統看護学講座 専門分野Ⅱ 救急看護学 医学書院 ④系統看護学講座 専門分野Ⅱ クリティカル看護学 医学書院 ⑤臨床看護技術2 インターメディカ ⑥系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学①		
自己学習（予習・復習等の内容・時間）	事前学修（各講義に対して60分程度）：各講義に該当する教科書の内容を熟読し、理解できていない点を明確にした上で受講してください。レポートを課すことがあります。 事後学修（各講義に対して60分程度）：各講義で学習した内容を整理し、理解ができているか復習をしてください。レポート課題を課す場合があります。		

授業概要(シラバス)

授業科目名	老年学		
授業担当者名	穴井 美恵		
単位数	1単位	開講期（年次学期）	1年次後期
教員担当形態	単独	ナンバリングコード	241-1AGN1-02
備考	実務経験のある教員担当科目		
授業のテーマ及び到達目標	授業のテーマは、高齢者の加齢変化および特性を踏まえた看護を実践するための基盤となる知識を習得することである。 〔到達目標〕 1. 人間の老いるという現象について多角的に説明できる。 2. 加齢に伴う心身の変化と日常生活への影響について説明できる。 3. 高齢者の代表的な疾患や特徴的な症状とその予防について説明できる。		
ディプロマポリシーとの関連	この授業を履修することで、高齢者の健康レベル及び療養の場に応じた看護を実践するための専門的な知識を身につけることができる。 （「知識・技能」◎、「意欲・態度」○）		
授業の概要	老年学の目的は、対象を生物学的、心理学的、社会的な観点から捉えたうえで、ヒトの加齢現象や社会の高齢化にかかわる諸問題の解決を探究することである。老化に関する学説についての知識を深め、加齢や老化にはどのような生理的、機能的、精神的な背景があるかを学修する。また、加齢に伴う心身の変化が日常生活にどのように影響するかを理解するとともに、高齢者の疾病をめぐる特徴を踏まえ、予防的観点から老年期の人々への看護の在り方について学修する。 ＜実務経験と本科目との関連＞ 看護師として老年期にある対象への医療現場での実務経験を踏まえて、高齢者の健康レベル及び療養の場に応じた看護を実践するための専門的な知識を総合的に解説する。		
学生に対する評価の方法	①授業への参画態度（20%） ②授業内容の理解度（80%） 以上から総合的に評価する。		
授業計画（回数ごとの内容、授業技法等）	第01回 老年学、老化、「老いる」ことの意味 第02回 加齢に伴う心身の変化① 身体面 第03回 加齢に伴う心身の変化② 心理・社会面 第04回 老年病、老年症候群、加齢変化による日常生活への影響 第05回 加齢による運動器、血管の変化 第06回 加齢による口腔機能、認知機能の変化 第07回 高齢者に特徴的な症候と疾患（脳・神経系） 第08回 高齢者に特徴的な症候と疾患（泌尿器系） 授業全体の振り返り		
使用教科書	①系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 医学書院 ②系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾患論 医学書院		
自己学習（予習・復習等の内容・時間）	予習は各講義に該当するテキストの内容をよく読み、疑問点や意見等を明確にして授業に臨んでください（毎回60分）。復習は、各回で示される学習目標に沿って自分なりに学習内容やキーワード、授業で示された重要な点をまとめたノートを作成し、整理してください（毎回60分）。 新聞、雑誌、書籍、テレビ番組などから関連するテーマについて、日ごろから注意しておきましょう。		

授業概要(シラバス)

授業科目名	小児看護学概論		
授業担当者名	金城 やす子、八田 早恵子、鯉淵 乙登女		
単位数	1単位	開講期（年次学期）	2年次後期
教員担当形態	オムニバス（主担当：金城 やす子）	ナンバリングコード	241-1CHN1-01
備考	実務経験のある教員担当科目		
授業のテーマ及び到達目標	〔授業科目のテーマ〕 子どもが社会の中でどのように存在するのか、子どもの人権擁護がどのようになされているのかを考える。その上で子どもの特徴を捉え、小児期における看護の目的と役割が理解できる。 1. 子どもとは何か、社会における子どもの存在について理解することができる。 2. 子どもに関連する政策や保健・福祉制度について理解する。 3. 子どもの人権、権利擁護、倫理的配慮について説明することができる。		
ディプロマポリシーとの関連	DP1:知識・技能 ◎ DP2:思考力・判断力・創造力 ○		
授業の概要	小児看護学概論の目的は、小児看護学全般について小児看護の概念と理論（成長、発達、家族、母子関係）を学ぶことにある。小児看護の対象である子どもの理解をうながすために、子どもとは何か、子どもの存在について考える。子どもが社会の中でどのように存在してきたのか、医療や看護、社会情勢との関連において子ども観の変遷を学ぶ。そのうえで、子どもの人権と看護について学ぶ。さらに、子どもを取り巻く社会や経済状況、保健・福祉制度について理解することで、子どもの倫理面に関する理解を深める。 ＜実務経験と本科目との関連＞ 看護師としての小児看護の実務経験をもとに、小児看護の概念と理論に関する理解を促すために、子どもを取り巻く社会や経済状況、保健・福祉制度についての専門的な知識を総合的に解説する。		
学生に対する評価の方法	①講義への参画度（ポートフォリオ含む） 20% ②授業内容理解度チェック 70% ③ミニレポート（授業課題） 10% ①～③を総合的に判断し、100点満点として評価する。		
授業計画（回数ごとの内容、授業技法等）	第01回 小児看護の特徴、小児看護の変遷 (金城) 第02回 小児看護と倫理：子どもの権利と人権、児童憲章、児童の権利条約 (金城) 小児看護に関連した諸統計 (金城) 第03回 子どもを取り巻く社会：児童福祉、母子保健 (金城) 第04回 子どもを取り巻く社会：母子保健、予防接種、学校保健 (金城) 第05回 障害のある子どもと家族の看護：障害のある子どもと家族への具体的支援 (八田) 発達障害、災害看護、虐待と看護 (金城) 第06回 さまざまな状況にある子どもの看護：急性期看護 (金城) 第07回 子どもの事故・外傷 (金城) 第08回 子どもを看護するとは／まとめ（理解度確認） (金城・八田・鯉淵) 授業全体の振り返り		
使用教科書	医学書院 『系統看護学講座 小児看護学①』 参考資料等は講義時に配布、説明します。		
自己学習（予習・復習等の内容・時間）	①次回講義範囲を示すので、テキスト、資料を読んで、不明な点は自己学習（事前学習）し、ポートフォリオにファイルすること。テキストは小児看護学①を使用する ②講義終了後、講義内容を確認し、不明な点は各自で調べること * 事前学習には60分～90分使用、事後学習は40～60分使用 学修した内容はポートフォリオに綴じてください。提出していただく場合があります。		

授業科目名	母性看護学概論		
授業担当者名	清水 嘉子、鈴木 孝、小幡 さつき		
単位数	1単位	開講期（年次学期）	2年次前期
教員担当形態	オムニバス（主担当：清水嘉子）	ナンバリングコード	241-1MAN1-01
備考	実務経験のある教員担当科目 講義科目		
授業のテーマ及び到達目標	〔授業科目のテーマ〕 次世代の健全育成・人間形成の基盤にかかわる母性看護の特徴について学び、母性機能を有した女性を理解し、健康のあり方と健康問題について理解を深めると共に、母性看護の対象を取り巻く社会の変遷と現状を知ることができる。 〔授業科目の到達目標〕 1. 母性看護の基盤となる概念や理論について説明できる。 2. 母性看護の対象を取り巻く社会の変遷について学ぶことができる。 3. ヒトの性分化、形態、機能の変化を知ることができる。 4. 女性のライフステージ各期の健康問題および看護について説明できる。 5. 母子保健の統計指標について説明でき、母子保健の動向を把握できる。 6. 母性看護における倫理的課題・諸問題について考察できる。		
ディプロマポリシーとの関連	「知識・技能」◎、「意欲・態度」○		
授業の概要	次世代の健全育成・人間形成の基盤にかかわる母性看護の概念や理論を理解し、母性看護を取り巻く社会の変遷と現状について学ぶ。また、人間の性と生殖の側面から看護の目的、機能、役割について理解する。さらに、女性のライフサイクルの特徴をふまえ、女性のライフステージ各期における健康および看護について学び、生殖補助医療や出生前診断、産科医療の現状と課題など母性看護における倫理的課題・諸問題について学びを深める。 <実務経験と本科目との関連> 看護師としての母性看護の実務経験をもとに、母性看護の概念や理論に関する理解を促すために、母性看護を取り巻く社会の変遷と現状についての専門的な知識を総合的に解説する。		
学生に対する評価の方法	レポート（100%）		
授業計画（回数ごとの内容、授業技法 等）	第01回 母性に対する考え方と母性看護の基盤となる概念や理論 ・・・・・・・・清水 第02回 母性看護の基盤となる概念/母性看護学・助産学の違い/産科医療の現状 ・・・・・・・・清水 第03回 子育て・児童虐待防止 ・・・・・・・・清水 第04回 母子保健統計からみた動向/母性看護に関する法律・制度・施策/世界の母子保健 ・・・・・・・・清水 第05回 思春期・成熟期の健康問題と看護 ・・・・・・・・小幡 第06回 更年期・老年期の健康問題と看護 ・・・・・・・・鈴木 第07回 不妊症の看護 ・・・・・・・・清水 第08回 母性看護における倫理的課題 授業全体の振り返り ・・・・・・・・清水		
使用教科書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学概論 母性看護学1 医学書院 国民衛生の動向 参考図書： 母子保健の主なる統計 財団法人母子衛生研究会 新体系看護学全書 母性看護学1 母性看護学概論 ウィメンズヘルスと看護、メヂカルフレンド社、第6版、2019. 母性の心理社会的側面と看護ケア、医学書院、1990. 病気がみえるVol.10産科、MEDIC MEDIA、第4版、2018.		
自己学習（予習・復習等の内容・時間）	母性看護学を学ぶ上での入門となる。各自講義に関する学びを深めるために、問題意識を持った自己学習を重ねることで、自らの学びとする努力をすること（90分）。 母性看護に関連する法律や制度、母子保健統計のデータなどは社会の変化に連動して変化することが多くある。また、産科医療にかかわるトピックなど授業以外の場でも鋭敏になり学んでほしい。特に、生命倫理、女性の健康への理解を深めるための性と生殖、健康をより促進する看護の考え方、女性を取り巻く社会状況など考察する姿勢が大切になる。		

授業概要(シラバス)

授業科目名	母性看護方法論1		
授業担当者名	清水 嘉子、小幡 さつき		
単位数	2単位	開講期（年次学期）	2年次後期
教員担当形態	複数（主担当：清水 嘉子）	ナンバリングコード	241-2MAN2-02
備考	実務経験のある教員担当科目 講義科目		
授業のテーマ及び到達目標	〔授業科目のテーマ〕 周産期（妊娠・分娩・産褥）にある女性の身体的・心理社会的な変化について理解し、より正常に経過し、セルフケア能力を高めるウェルネスの看護について理解を深めると共に、新しい家族を迎える女性とその家族に対する援助について学ぶ。 〔授業科目の到達目標〕 1. 正常な経過をたどる妊産褥婦と新生児，その家族の特性について説明できる。 2. 正常な経過をたどる妊産褥婦と新生児，その家族の健康状態のアセスメントができ必要な看護について説明できる。		
ディプロマポリシーとの関連	「知識・技能」◎、「思考力・判断力・創造力」○		
授業の概要	正常な経過をたどるマタニティサイクルにおける女性と新生児、その家族への看護実践のうえで必要とされる知識と技術を学習し、妊娠期・分娩期・産褥期における基本的な看護援助について学ぶ。 ＜実務経験と本科目との関連＞ 看護師としてのマタニティサイクルにおける女性と新生児への実務経験をもとに、母性看護に関する具体的な事例を交えながら看護の対象への理解を深める。		
学生に対する評価の方法	授業内容の理解度(90%) 課題レポート(10%)		
授業計画（回数ごとの内容、授業技法等）	第01～05回 妊娠期の看護 周産期の看護について、妊娠の成立、妊娠経過の情報とアセスメント、妊婦健診と保健指導（課題） 授業内容の理解度（妊娠期）・・・・清水 第06～09回 分娩期の看護 出産準備教育、分娩の3要素と分娩経過の情報とアセスメント、分娩期の看護 授業内容の理解度（分娩期）・・・・清水 第10～13回 産褥期の看護 産褥の経過と看護 母乳育児支援 退院に向けた支援 授業内容の理解度（産褥期）・・・・清水 第14～16回 新生児期の看護 新生児の特徴、胎外生活への適応過程、全身状態の観察 新生児期の看護過程のポイント 授業内容の理解度（新生児期） 授業全体の振り返り ・・・・・・・・小幡		
使用教科書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学各論 母性看護学2 医学書院 第14版 2021. 病気がみえるVol.10産科, MEDIC MEDIA, 第4版, 2018. 参考図書： 母性看護学1. 妊娠・分娩, 医歯薬出版, 第2版, 2006. 母性看護学2. 産褥・新生児, 医歯薬出版, 第2版, 2006. 新生児学入門, 医学書院, 第5版, 2018. 母乳育児支援スタンダード, 第2版, 医学書院, 2015. WHOの59カ条 お産のケア実践ガイド 戸田律子訳, 農文協, 1997.		
自己学習（予習・復習等の内容・時間）	授業前に各講義内容のキーワードについて調べ、質問や確認事項をまとめ受講する（90分）。授業後は講義のポイントや新たな関心事について自ら調べたことをノートにまとめ、看護学実習や国家試験対策などに反映させる（90分）。 キーワード：妊娠、胎児、妊婦健康診査、マイナートラブル、親になる過程、分娩、分娩の3要素、産痛、分娩の機序、産褥、子宮復古、愛着、母親役割、マタニティブルー、新生児、生理的体重減少、生理的黄疸 マタニティサイクルにおける正常な経過をたどる女性と新生児の看護の特徴は、ウェルネス志向、母児一体でみること、妊娠・分娩・産褥を一連の流れで捉えることである。正常な経過をたどる妊娠・分娩・産褥期の看護を学び、母子の看護を実践するための知識に基づいた特有の看護技術を習得するためにモデルを活用した自己学習に努めてほしい。親になる過程および家族適応を促す援助について学びを深めるために、日頃より対象への関心や対象を取り巻く社会の問題に関心を深めることが大切になる。		

（看護学科・実務経験のある教員担当科目）

授業概要(シラバス)

授業科目名	精神看護学概論		
授業担当者名	永井 邦芳		
単位数	1単位	開講期（年次学期）	2年次前期
教員担当形態	単独	ナンバリングコード	241-1PMN1-01
備考	実務経験のある教員担当科目		
授業のテーマ及び到達目標	〔授業科目のテーマ〕 精神看護学とは何であるのか、何をすることが精神看護なのかということに対しての解答を得るための基盤となる知識、考えを修得する 〔授業科目の到達目標〕 ①精神の健康とは何かについて説明できる ②精神看護に関連のある理論や概念について説明できる ③生物的、心理的、社会的側面から精神（こころ）を説明できる ④こころの成長発達について説明できる		
ディプロマポリシーとの関連	「知識・技能」◎、「意欲・態度」○		
授業の概要	精神看護学概論では、精神看護学とは何であるのか、何をするものなのかという問いに対して、その中心概念となる「こころ」について生物的、心理的、社会的側面から理解できるように学修を進める。その中で脳の構造や機能と精神活動、ライフサイクルと心理発達、社会とメンタルヘルス、精神保健福祉の歴史的背景などについて理解を深め「心の健康」また「精神障害」とは何かと言う問いに対する答えを見出してながら、精神医療保健福祉における看護師の果たすべき役割と機能について理解することにある。 ＜実務経験と本科目との関連＞ 看護師としての精神障害者への実務経験をもとに、精神看護学の中心概念である「こころ」について生物的、心理的、社会的側面から理解するために、専門的知識を総合的に解説する。		
学生に対する評価の方法	ミニットペーパー（20％）、理解確認(80%)		
授業計画（回数ごとの内容、授業技法 等）	第01回 精神の健康と精神障害 【講義】 第02回 精神（こころ）のとらえ方（人間のこころの諸活動について） 【講義】 第03回 こころの仕組みと人格の発達1（フロイトの精神力動論から考えるこころ） 【講義】 第04回 こころの仕組みと人格の発達2（クライン対象関係論 ボウルビー愛着理論から考えるこころ） 【講義】 第05回 脳機能と精神活動（情動、認知、記憶） 【講義】 第06回 心の危機とストレス（危機理論、ストレス反応、ストレスコーピングについて） 【講義】 第07回 生活の場と精神（こころ）の健康 【講義】 第08回 理解度確認、精神医療保健福祉の歴史 【講義】 授業全体の振り返り		
使用教科書	精神看護の基礎：医学書院		
自己学習（予習・復習等の内容・時間）	事前学修として教科書で予習（45分）をしておいてください。また復習（45分）をしっかりとすることで講義での内容が知識として定着しますので、講義の振り返り学修を丁寧にしてほしいと思います。		

授業概要(シラバス)

授業科目名	精神看護方法論1		
授業担当者名	永井 邦芳、藤澤 浩美、木野 有美		
単位数	2単位	開講期（年次学期）	2年次後期
教員担当形態	複数（主担当：永井 邦芳）	ナンバリングコード	241-1PMN2-02
備考	実務経験のある教員担当科目		
授業のテーマ及び到達目標	授業科目のテーマ] 精神疾患の病態・症状・検査・治療を踏まえ、援助を実践するために必要な知識・技術を習得する 1. 精神症状とその対応について理解できる。 2. 精神疾患（障害）の種類と特徴、治療について看護の視点から理解ができる。 3. 精神科リハビリテーションの具体的方法及び関連する職種の役割、機能について理解できる。 4. 精神障害者の地域移行上の問題と対策、看護の役割について理解できる		
ディプロマポリシーとの関連	知識・技能」◎、「思考力・判断力・創造力」○		
授業の概要	精神看護方法論1の目的は、精神障害（精神的問題）により様々な生きにくさを抱えながら生活している当事者への具体的支援方法を学修する。精神疾患を含む精神障害の特徴を踏まえ、行われている治療やリハビリテーション（薬物療法、精神療法、心理社会療法等）を理解し、看護師としての専門的な支援の在り方について学ぶ。さらにこれからの精神保健福祉医療の在り方として地域生活という視点を重視し、精神障害者自身が自身の生活を主体的に営んでいくための支援について学修する。 <実務経験と本科目との関連> 看護師としての精神障害者への実務経験をもとに、精神保健福祉医療で実際に起きている課題や対応について具体例を示し、必要な支援を検討する。		
学生に対する評価の方法	提出を義務づけるリアクションペーパー及びミニットペーパー（20%）講義理解度確認（80%）により総合的に判断する。講義理解度確認は15回の講義とは別に設定する日時で行う。		
授業計画（回数ごとの内容、授業技法 等）	第01回 精神看護で用いられる看護理論とその応用 （セルフケア理論 人間関係論リカバリー論） 第02回 精神障害と法制度（精神保健福祉法 障害者総合支援法 医療観察法） 第03回 精神症状についての理解① 意識、知覚、思考、感情の看護アセスメント 第04回 精神症状についての理解② 精神現症と状態像の看護アセスメント 第05回 精神科治療と看護の役割（薬物療法） 第06回 精神科治療と看護の役割（心理社会療法、認知行動療法その他） 第07回 精神科における入院治療と看護 第08回 精神障害の病態と看護 急性期に起こることと看護： （統合失調症圏：急性混乱、精神運動興奮時の対応とリスクマネジメント） 第09回 精神障害の病態と看護 慢性経過の患者への看護（残遺症状と陰性症状） 第10回 精神障害の病態と看護 気分（感情に問題を抱える人）への看護： （抑うつ、昏迷、自殺自傷リスクへの対応） 第11回 精神障害の病態と看護 アディクションと看護 （離脱症状 共依存 ピアグループ） 第12回 精神障害の病態と看護 社会で生きにくさを抱える人への看護 パーソナリティ障害 第13回 心的外傷（PTSD）とトラウマケア 第14回 精神リエゾン看護 第15回 精神医療と倫理的問題（人権擁護に対する看護師の責任と役割について） 授業全体の振り返り		
使用教科書	医学書院 精神看護の展開		
自己学習（予習・復習等の内容・時間）	使用する教科書を確認したうえで授業に参加する（45分）、授業の復習については、授業終了後できるだけ早い段階で理解しづらかった部分を解決しておくようにしてください（45分）。		

授業概要(シラバス)

授業科目名	健康生活支援論		
授業担当者名	工藤 紀子、世俵 智恵子		
単位数	1単位	開講期（年次学期）	1年次前期
教員担当形態	オムニバス（主担当教員：工藤紀子）	ナンバリングコード	241-1CON1-01
備考	実務経験のある教員担当科目		
授業のテーマ及び到達目標	〔テーマ〕 地域での人々の暮らしを知り、暮らしが健康に与える影響を理解する。 〔到達目標〕 1. 暮らすとはどういうことか考えを述べられる。 2. 地域で暮らしている人々の生活と地域の多様性を理解する。 3. 地域で暮らしている多様な人々が看護の対象であることを理解する。 4. 地域で暮らしている人々の暮らしと健康との関連を理解する。 5. 身近な事例から地域と暮らしと健康との関係を説明できる。 6. 看護の観点から地域とそこに住む人々の暮らしを理解する必要性を現代の社会的背景に基づき説明できる。		
ディプロマポリシーとの関連	DP1 知識・技能◎ DP2思考力・判断力・創造力○		
授業の概要	地域で生活する人々の暮らしと健康を支援するためには、入院患者中心ではなく、地域で暮らす人々すべてが看護の対象であることを認識する。そのために、地域で暮らす人々とその暮らしの実際を知り、暮らしや生活環境が健康に与える影響について理解することが重要である。授業は、事例や身近な人々の暮らし方を知るインタビュー等を題材として、地域・暮らし・人間・健康についてディスカッションを通して理解を深められるように進める。 <実務経験と本科目との関連> 看護師としての地域での活動の実務経験を踏まえて、地域での人々の生活と健康への影響について具体例を交えながら看護の対象への理解を深める。		
学生に対する評価の方法	1. 課題（30%） 2. レポート（40%） 3. 授業へ参画態度（30%） 以上の3点から総合的に評価する		
授業計画（回数ごとの内容、授業技法等）	第01回 ガイダンス、暮らしとは何か 工藤 第02回 地域とそこに暮らす人々とは 工藤 第03回 そこに住む人々のおもい、力、支えあい 工藤 第04回 身近な地域を看護の視点で観察する 工藤 第05回 身近な地域とそこでの暮らし 工藤 第06回 事例をもとに暮らしと人々の思いについて考える 工藤 第07回 事例をもとに暮らしと健康について考える 世俵 第08回 地域と暮らしと健康との関連（まとめ） 工藤 授業全体の振り返り		
使用教科書	河原加代子著者代表：系統看護学講座 地域・在宅看護論 [1] 地域・在宅看護の基盤 第6版, 医学書院, 2022.		
自己学習（予習・復習等の内容・時間）	〔事前学習〕（週45分） ①各講義に該当する教科書の内容を読み、受講してください。 ②日常生活における出来事全般やニュースなどの暮らしと健康に関する情報に関心を寄せてください。 ③提示する事前学習課題に取り組み、受講してください。 〔事後学習〕（週45分） 各講義で学習した内容を整理して、復習し、課題レポートに反映してください。		

授業概要(シラバス)

授業科目名	看護管理		
授業担当者名	白鳥 さつき、出原 弥和		
単位数	1単位	開講期（年次学期）	4年次前期
教員担当形態	複数（主担当：白鳥さつき）	ナンバリングコード	241-1CON3-11
備考	実務経験のある教員担当科目		
授業のテーマ及び到達目標	〔授業科目のテーマ〕 組織とマネジメントについて理解し、時代の要請に応える質の高い組織的看護サービスを提供するための看護管理の重要性を学ぶ。 〔授業科目の到達目標〕 1. 病院における看護部組織の特徴を理解する。 2. 看護の組織化、看護サービス提供体制の仕組みを理解する。 3. 医療チームの一員としてのマネジメントの基礎を理解する。 4. 業務遂行のためのマネジメントの基礎を理解する。 5. 看護職自身のマネジメント（健康管理とキャリア）を考えることができる。		
ディプロマポリシーとの関連	「知識・技能」○ 「思考・判断力・創造力」◎		
授業の概要	看護管理を学ぶ目的は、対象にとって望ましい看護サービスが受けられるよう、組織が一貫性・継続性をもって合理的ヒト・モノ・カネを運用し看護活動の提供のあり方を学ぶことにある。看護管理には、広範な内容が含まれる。チーム医療や組織、看護単位の統括、多職種との連携と協働、看護ケアシステムの決定、人材の育成、施設・設備環境のマネジメント、モノのマネジメント、サービスの評価等である。いずれにしてもこういった内容は、患者への看護サービス向上を視野に入れてなされるものであることを学ぶ。 ＜実務経験と本科目との関連＞ 看護師としての看護管理の実務経験をもとに、組織とマネジメントへの理解を促し、看護管理に関する広範な組織的看護サービスについて総合的に解説する。		
学生に対する評価の方法	理解度確認（80％）、リアクションペーパー（20％）		
授業計画（回数ごとの内容、授業技法等）	1回 講義 ガイダンス 看護管理の歴史 マネジメントとは（白鳥） 2回 講義 組織の成り立ちと構成員（白鳥） 3回 講義/演習 グループワーク 各看護方式について（白鳥、出原） 4回 講義/演習 プレゼンテーション 成果発表（白鳥、出原） 5回 講義 看護サービスとは 特徴と質の向上について（白鳥） 6回 講義/演習 リスクマネジメント 危険予知トレーニング（白鳥） 7回 講義/演習 グループワークとプレゼンテーション 危険予知トレーニング（白鳥、出原） 8回 講義 看護情報学（白鳥） 9回 総まとめ（白鳥） 授業全体の振り返り		
使用教科書	①系統看護学講座 統合分野 「看護管理」：医学書院 ②医療安全：メディカ出版		
自己学習（予習・復習等の内容・時間）	シラバスの内容を確認し、事前に必要な情報を病院のホームページなどを活用して整理しておく（各週90分）。 参考図書を提示するので事前課題に役立てること。課題への取り組み（各週120分程度）。		

授業概要(シラバス)

授業科目名	統合看護技術論		
授業担当者名	宮本 恵子、佐藤 由佳、鈴木 里美、土井 智子		
単位数	1単位	開講期（年次学期）	4年次前期
教員担当形態	複数、クラス分け （主担当：宮本恵子）	ナンバリングコード	241-1CON3-12
備考	実務経験のある教員担当科目		
授業のテーマ及び到達目標	〔テーマ〕 専門職業人としての自覚を持ち、対象の状況に応じた看護を実践する知識・技術を習得する 〔到達目標〕 1. 看護単位における看護チームの一員としての役割を理解できる。 2. 一人の患者における複数の看護問題について優先度の判断と看護の実践ができる。 3. 複数患者における多数の看護問題について優先度の判断と看護の実践ができる。		
ディプロマポリシーとの関連	DP1：知識・技能 ◎ DP2：思考力・判断力・創造力 ○		
授業の概要	この科目の目的は、専門分野での各領域別の看護実習を踏まえ、実際の臨床の場面を想定し、①複数の患者を受け持ち、看護問題の優先度の判断 ②必要とされる幾つかの看護援助（多重課題）の状況判断、実施計画、方法の選択について学習する。模擬患者を設定し、臨床現場で使用されている看護用品、医療機器を使用し演習する。 ＜実務経験と本科目との関連＞ 看護師としての実務経験をもとに、チーム医療や多重課題の場面における困難事例を提示し、実際に起きている課題を分析し、望ましい解決方法について具体的に検討する。		
学生に対する評価の方法	アクティブラーニングを活用して演習への参画度（30%）、リアクションペーパー（30%）、課題（40%）により総合的に評価する。		
授業計画（回数ごとの内容、授業技法 等）	第01回 ガイダンス（演習の進め方、記録用紙の使い方など）、チーム医療 第02回 チーム医療（グループワーク・プレゼンテーション資料作成） 第03回 チーム医療（プレゼンテーション） 第04回 一人患者への援助計画の立案～効率の良い情報収集とケア計画の立案～ 第05回 一人患者への援助計画の立案 グループワーク・演習 第06回 一人患者への援助 清拭・更衣介助（演習・記録） 第07回 一人患者への援助 陰部洗浄（演習） 第08回 侵襲を伴う看護技術と針刺事故防止対策：血糖測定（演習） 第09回 侵襲を伴う看護技術と感染対策：吸引・口腔ケア・輸液ポンプの管理（演習） 第10回 看護師のインシデントと発生要因 第11回 複数患者に対する1日の行動スケジュールの立案方法・予定変更とは 先を予測する力とその必要性、優先度の判断 第12回 複数患者への優先順位を考えた看護計画の立案（個人ワーク・グループワーク） 第13回 複数患者への優先順位を考えた看護援助の実施・評価（演習） 第14回 複数患者への優先順位を考えた看護援助の実施・評価（個人ワーク・グループワーク） 第15回 複数患者への優先順位を考えた看護援助のまとめ（演習）、授業全体の振り返り		
使用教科書	系統看護学講座 専門分野Ⅰ「基礎看護技術Ⅰ」「基礎看護技術Ⅱ」 医学書院		
自己学習（予習・復習等の内容・時間）	これまでの講義、実習で習得した知識、技術を統合し、一人の対象への援助を実施し、次に複数患者への優先度を考えた援助の実施を行います。事前学習をして臨み、確かな技術を身に付けてください。 ペーパーペイシェントの事例展開は、事前に個人で事例の理解および計画の立案を行ってからグループワークに臨む。（週60分） 看護の実践にあたっては、事前に自己練習をしておく。（週60分）		

（看護学科・実務経験のある教員担当科目）